

## 生ごみ処理容器の特徴

	写真(参考)	特徴	補助金額
電動式生ごみ処理機		<p><b>加熱型</b> 加熱により短時間で水分を除去し、乾燥により減量化する。チップ等を必要としないため小型にできる特徴がある。</p> <p><b>バイオ型</b> 微生物の働きを利用して生ごみを分解する。微生物の働きを促進するために、一定の高い気温に保っている。</p>	<p>購入価格の1/2 上限50,000円 (1世帯1台 耐用年数5年)</p>
埋込式生ごみ処理機		<p>大きなポリバケツをひっくり返したような形をしている。吊鐘形状 微生物による自然浄化作用により堆肥化する。</p>	<p>購入価格の1/2 上限5,000円 (1世帯2台 耐用年数なし)</p>
密閉式生ごみ処理機		<p>ふた付きのポリバケツのような形をしている。 ぼかしといわれる生ごみ醗酵堆肥化材(EM)を生ごみにふりかけて生ごみを醗酵させる。</p>	<p>購入価格の1/2 上限3,000円 (1世帯2台 耐用年数なし)</p>

### 《対象外になる処理機》

粉砕式生ごみ処理機	<p>ディスポーサー</p>	<p>生ごみを粉砕処理し家庭排水管等に直接排水するもの。</p>	<p>対象外</p>
-----------	----------------	----------------------------------	------------